２０２２年（令和４年）　８月５日　金曜日
東奥日報　１２面　掲載

光星 仲井監督
総力戦で粘り強く

創志学園 長澤監督
エース岡村に期待

7日初戦 かく戦う

６日に開幕する全国高校野球選手権で、本県代表の八戸学院光星は大会第２日の第１試合（７日・午前８時開始予定）で岡山県代表の創志学園と対戦する。初戦を前に、八学光星の仲井宗基監督と創志学園の長澤宏行監督が４日、本紙などの取材に応じ、相手の印象や試合の展望を語った。

八学光星
仲井宗基監督
（同校提供）

―相手チームをどう見る。

仲井監督　エースの岡村投手はレベルが高く、しっかり攻め崩さなければいけない。チームとしても鉄壁の守備力があると感じる。

長澤監督　強打と継投で勝ち上がったと聞いている。県大会は接戦をものにした試合が多いようで、非常に粘り強いチームなのではないか。

―鍵になる選手は。

仲井監督　県大会で振るわなかった1番佐藤、2番井坂らが自分のバッティングを取り戻しつつある。打つべき人がしっかり打てれば。

長澤監督　岡村と竹本のバッテリー。特にバットがよく振れている、4番金田ら（上位打線の）左打者3人がどれだけ相手投手に通用するかが鍵になる。

―どう戦う。

仲井監督　自ら先にほころばないような展開になれば。このチームは総力戦で戦ってきた。最後まで粘り強く戦い、全員をつぎ込むくらいでいきたい。

長澤監督　岡村が相手打線をどれだけ抑えられるか。2、3失点に抑え、打線がそれを上回る点を取る。守りを固め、エラーで失点しない展開にしたい。

―初戦へ意気込みを。

仲井監督　もちろん勝つための準備はするが、自分たちの力を全て出し切って、甲子園全体が味方につくような、いい野球をしたい。

長澤監督　岡山の代表としていい試合をする。選手たちを活躍させたい。（まとめ・野村遥）

東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです